

平成21年度事業計画

1. 大学生への奨学金支給関連事業

(1) 大学生への奨学金貸与

平成21年度の奨学生を次のとおり採用する。

①貸与対象：大学生(学業・人物ともに優秀かつ健康であって学資の支弁が困難と認められる者、30歳未満の者)

②貸与金額：月額40,000円、卒業までの最短修学期間

③採用人員：100名程度

④採用方法：募集案内を希望する全国の大学約450校に募集要綱等を配布する。応募はすべて大学経由とし、インターネットによる応募を義務付けている。採用者は選考委員会による選考を経て、理事長が決定する。

尚採用人員は、新たに次項(2)「大学生への奨学金給付」事業が開始されるため、平成20年度150名程度の採用と比べ減員する。

- ・21年度支出予算：(奨学金貸与支出) 193,920,000円
(20年度支出予算：217,920,000円)

(2) 大学生への奨学金給付(高校時予約採用)

平成21年度の大学入学予定者に対して、給付奨学金の募集を平成20年6月及び10月に行い、平成20年12月時点で計62名が内定した。当該内定者の内、平成21年4月に当財団指定の大学に入学した者に対し、最長4年間に月額5万円の奨学金を給付する。

又、平成22年度の大学入学予定者に対しても、平成21年に下記の通り選考作業を行う。

①給付対象：当財団が指定する公立高等学校の3年生で、在学学校長の推薦があった者。成績優秀かつ学費の援助が必要と認められる者で、当財団の指定大学への入学を条件とする。原則として理・工学系、医・薬学系を除く。

②給付金額：月額50,000円、期間は大学在学中の最長4年間。

③採用人員：年間50名前後。給付者総数は21年度50名、22年度100名、23年度150名、24年以降200名を予定している。

④採用方法：給付奨学生は、指定公立高校から各1名選ばれた候補者の中から、選考委員会による選考、事務局面接を経て理事長が決定する。5月に採用活動を開始し、9月に内定する予定である。そして指定大学入学後に奨学金の給付を開始する。指定大学不合格の場合は内定を取消すが、平成21年度以降に内定した者は、不合格の場合は次年度の入学を認める(所謂「一浪」まで可とする)。

- ・21年度支出予算：(奨学金給付支出) 28,200,000円

*給付額は22年度6千万円、23年度9千万円、24年度以降は1億2千万円の予定。

(3) 留学奨励金の給付

平成 21 年度の留学奨励金給付者を次のとおり選考する。

- ①給付対象 : 電通育英会の奨学生で留学が内定している者
- ②給付金額 : 100 万円を限度に渡航費・学校納付金・寮費を支給
- ③採用人員 : 数名
- ④採用方法 : 平成 21 年 6 月及び 12 月に、電通育英会奨学生の中から募集し、選考委員会による選考、事務局面接を経て、理事長が決定する。
 - ・ 21 年度支出予算 : (留学奨励金支出) 2,000,000 円
 - (20 年度支出予算 : 6,300,000 円)

(4) 成績優秀による奨学金の返還免除

電通育英会奨学生の卒業予定者の中から、成績優秀者およびその他スポーツ・文化領域等において優秀な成績を収めた者を選び、奨学金返還免除の特典を与える。

- ①免除対象 : 卒業予定の当育英会奨学生で成績優秀者等、但し 2 年間以上奨学金の貸与を受けた者。
- ②返還免除金額 : 卒業時まで貸与した奨学金全額
- ③採用人員 : 20 名程度
- ④採用方法 : 成績優秀による奨学金返還免除者は、選考委員会による審査、事務局面接を経て理事長が決定する。
 - ・ 21 年度支出予算 : (返還免除費用) 37,000,000 円*固定資産減少分
 - (20 年度予算 : 37,000,000 円)

2. 大学院生への奨学金給付関連事業

(1) 大学院給付奨学生への奨学金給付

- ①給付対象 : ・当財団が指定する大学院(修士課程)の 1 年生で、在学学校長の推薦があった者
 - ・原則として社会・人文科学を専攻する者
 - ・成績優秀で、かつ学費の援助が必要と認められる者
- ②給付金額・期間 : 月額 80,000 円、給付期間は 2 年以内とする
- ③採用人員 : 27 名程度、総数は 20 年度採用者を加え 50 名前後となる予定。
- ④採用方法 : 指定校で選ばれた候補者の中から、選考委員会での選考、事務局面接を経て理事長が決定する。
 - ・ 21 年度支出予算 : (大学院生給付支出) 48,960,000 円
 - (20 年度支出予算 : 47,040,000 円)

尚、平成 22 年度より指定大学の学部生を対象に大学院進学前の予約募集を行う予定である。

(2) 大学院給付留学奨学生への奨学金給付

- ①給付対象：・当財団が指定する大学院（修士・博士課程）に在籍する者で、在学学校長の推薦があった者
- ・日本以外の国籍をもつ者
 - ・原則として社会・人文科学を専攻する者
 - ・成績優秀で、かつ学費の援助が必要と認められる者
- ②給付金額・期間：月額 100,000 円、給付期間は2年以内とする
- ③採用人員：14名程度、総数は20年度採用者を加え26名前後となる予定。
- ④採用方法：指定校で選ばれた候補者の中から、選考委員会の選考、事務局面接を経て理事長が決定する。
- ・21年度支出予算：（留学生給付支出） 31,200,000 円
（20年度支出予算：31,200,000 円）

尚、平成22年度より成績優秀かつ奨学金を必要としている人材を獲得するため、大学院留学生の現地採用を行う。中国については中国教育部の協力を得て博士課程進学者を対象に渡日前予約募集を行う。また韓国・台湾についても同主旨の採用方法を検討中である。

3. 奨学生の研修・懇親会の実施

(1) 大学奨学生に対する「奨学生の集い」の実施

奨学生の研修及び奨学生同士あるいは財団役員・選考委員・事務局員との交流を目的とする「奨学生の集い」を、東京・大阪の2会場で開催する。開催時期は11月上旬を予定。

「奨学生の集い」では学生の社会的視野を広げることを目的に、各界で活躍する講師を招き講演会を開いている。平成20年度の講師は精神科医の和田秀樹氏（東京会場）、中央大学の山田昌弘教授（大阪会場）。平成21年度も従来同様、大学生の夢や問題意識に直接訴えるテーマと講師を選びたい。

- ・21年度支出予算：（奨学生の集い運営費） 7,400,000 円
（20年度支出予算：9,000,000 円）

(2) 大学給付奨学生に対する研修会の実施<新規>

新たに採用した大学給付奨学生に対して年1回の研修セミナーへの出席を義務付けている。セミナーは、社会生活に必要な汎用的スキルの涵養を目的にグループ討議、プレゼン演習等を行い、優秀な人材を育成する一助としたい。夏休み期間中に1泊2日の合宿形態で実施する。

- ・21年度支出予算：（セミナー開催費支出） 3,300,000 円

(3) 大学院奨学生に対する研修会の実施

大学院給付国内奨学生および同留学奨学生に対して、研修セミナーへの出席を義務付けている。研修セミナーは、奨学生の研究発表、各界講師による講演会、懇親会を内容とし、昨年同様年2回実施する。20年度は実践女子大学の中林美恵子准教授（夏期）、人材コンサルタントの城繁幸氏（冬期）を講師とした。夏期セミナーは1泊2日の合宿形態で実施する。

- ・ 21年度支出予算：（セミナー開催費支出） 6,500,000円
（20年度支出予算： 7,000,000円）

(4) 修了式

給付期間を修了した大学院給付奨学生及び大学貸与奨学生の内「成績優秀による返還免除者」を対象に、その研鑽実績と今後の活躍を祝して、修了式及び懇親会を行う。修了式は平成22年3月に、当財団の役員、選考委員、主要奨学財団、大学関係者を招いて開催する。

- ・ 21年度支出予算：（大学院生奨学金支出の内1,600,000円、
大学生奨学金支出の内900,000円 合計2,500,000円）
（20年度支出予算：合計3,100,000円）

4. 「IKUEI NEWS」の発行

平成20年度は4月号「現場から学ぶ社会人基礎力」7月号「キャリア教育が育む自立した学生」1月号「大学生が身につけるべき力」を特集テーマとした。いずれのテーマについても、専門家や大学関係者へのインタビューと大学生自身の意見や実情を取材するように努めた。10月号「大学生研究フォーラム」は20年8月に当財団と京都大学で共同開催したフォーラム特集とした。

今年度は4月号以降に編集のリニューアルを行うが、大学生のキャリア形成や教育課題に絞った問題提起を大学生及び教職員に対し行っていきたい。又「大学を訪ねて」、「先輩！こんにちは」等は継続する予定である。

主要読者層は貸与/給付中の奨学生、奨学金返還中の者、大学関係者（学長室及び学生部）、教育関係者、有力財団、全国主要図書館であり、新たに大学・高校関係者等、配布先を増やしていきたい。

- ・ 21年度支出予算：（電通育英会会報費支出） 22,000,000円
（20年度支出予算： 24,000,000円）

5. 大学・高校訪問

平成20年度は大学では、東北大、山形大、三重大、京都大、国際教養大、大阪府立大、（国公立）、立命館大、関西学院大、南山大（私立）他、合計17大学への訪問を行った。又新規事業である高校時予約採用のため、当育英会の指定公立高校10校前後も訪問した。

平成 21 年度も、各奨学制度の説明を中心に、大学学生課及び指定高校進学担当を訪問し、奨学事業に対する要望・意見も聴取する。大学・高校合計で 20 校程度訪問する予定である。

- ・ 21 年度支出予算：（大学・高校訪問支出） 800,000 円
（20 年度支出予算： 800,000 円）

6. 調査研究

平成 19, 20 年に実施した大学生意識調査（京都大学溝上准教授監修）の追加分析作業等を実施する。同調査は大学生の生活意識、勉学状況、課外活動、インターンシップ等、彼らのキャリア形成に関わるテーマを中心に構成している。分析結果は、大学関係者・教育関係者の研究素材として供することを目的に、当育英会のホームページに掲載する。

- ・ 21 年度支出予算：（調査研究支出） 2,500,000 円
（20 年度支出予算： 4,200,000 円）

7. 大学生研究フォーラムの開催

大学生研究の深化と課題発見のため、前年同様、京都大学と共催で平成 21 年 7 月に京都大学にて、教育学・心理学・青年若者論・労務研究等の教員、研究者を集めたシンポジウムを開催する。シンポジウムの構成は、現代大学生像、キャリア教育のあり方についての講演、パネルディスカッション、情報交換会を基本とする。開催日は 20 年度は 1 日だったが、21 年度は 7 月 25、26 日の 2 日間を予定している。

- ・ 21 年度支出予算：（大学生研究フォーラム支出） 8,000,000 円
（20 年度支出予算： 7,000,000 円）

8. 奨学金の返還業務（収入予算）

今後も奨学金管理システムの改善を図り、事務処理の迅速化を図る。また平成 21 年度は、貸倒れ処理基準を策定し、回収見込の難しい案件に関しては、貸倒れ検討会議において貸倒れ処理を適用していく。

- ・ 21 年度収入予算；（奨学金返還収入） 120,000,000 円
（20 年度収入予算： 98,000,000 円）